

地域のニーズにこたえて

(3) 函館コミュニティプラザ Gスクエア・株式会社商舎

北海道教育大学函館校 地域協働推進センター

センター長 齋藤 征人

2020年度から開始した森町での「地域づくり支援実習（P52・5章 科目概要⑦にも詳述）」を通じて連携・協働がスタートした株式会社商舎とのご縁は、2022年度は函館コミュニティプラザGスクエア（以下、「Gスクエア」）も巻き込み、新たな商品開発プロジェクトへ発展しました。2021年度末にGスクエアより協働のお申し入れがあり、2022年度の「地域プロジェクト」の一つとして「森町の特産品をかんがえて、つくって、販売する！プロジェクト」がスタートする運びとなりました。

Gスクエアは、地域と学校をつなぐサードプレイスとして、地元の学生と共に商品開発をするプロジェクトを行いたいと考えており、少子高齢化で地方の若者が減少傾向のなか、大学・企業と連携して事業を行うことで、地方創生につながる1つのロールモデルを構築したいというビジョンがあります。今回はそのGスクエアと、森町の地域商社である株式会社商舎が協働し、実際に販売を予定している地域特産品を使用した新商品の企画立案～プロデュース～販売の過程に、学生がプロジェクトメンバーとして参画することになりました。

新商品開発～販売の体験により、大学及び森町地域の知名度向上、新商品販売による地域活性化に資することができるとともに、実際に森町に入り込み、地域特性、歴史、文化、特産品など商品開発に必要な情報を収集し、商品づくりを行うことで、①地域活性化の実現手法、②地域とのコミュニケーションスキル、③企画力・工程管理、実践的マーケティング手法、販売実演などの実践的な能力を修得することができます。

このように、具体的な地域のニーズを本学の教育活動のなかに取り込み、学生たちに生きた学びの機会を提供し、同時に地域振興にも貢献できるといった好循環を創り出すことが、函館校の使命であろうと思います。

「地域を教室に、住民を先生に」というスローガンをより実際的に進めて行けるような、地域との有機的な連携・協働体制づくりに、今後とも積極的に取り組んでまいります。

令和4年5月20日 函館新聞 7面

道教育大函館校と株式会社商舎（森町）、函館コミュニティプラザ・Gスクエアの3者が連携し今年度、森町の特産品を考え商品を開発し販売するプロジェクト実習に取り組んでいる。商品開発の視点から学生が県外で地域の特性や魅力を学ぶことで、地域が抱える課題解決への糸口を探るとともに、地域の商社がマーケティングや販売手法などで意識することで地域活性化につなげる狙いだ。（町口賀清）

森町の特産品考え方商品化へ

函教大 × 商舎 × Gスクエア

道教育大函館校と株式会社商舎、Gスクエアでつくるプロジェクトメンバー

| | | | |
|-----------------------------------|--|--|---|
| 見特産品を用いた商品開発力を持つ学生 プラント | 森町内で農園などを訪問して、商品開発を行っていく。 サイトを検討していく。 | 学生たちは今後、どのようにして開拓していく。 まずは、農園などを訪問して、商品開発を行っていく。 サイトを検討していく。 | 学生ら、新たな可能性探る プレゼン、商品開発などをめどで、商品の「ランク」として、成り立つかなどを探った。 |
|-----------------------------------|--|--|---|